こころをつなぐ まちづくり

人権シリーズ vol.163

『話はわかるばってん』

国東市隣保館では、人権に関するDVDや書籍の貸し出しを行っています。どなたでも、無料で借りることができます。

さて、今年6月、ハンセン病患者の隔離政策で家族も差別などの被害を受けたとして、国に賠償を命じた熊本地裁の判決があったのを憶えているでしょうか。判決は、就学や就職、結婚など人生の節目で差別を受けてきたとし、家族に対する国の責任を初めて認めました。

父親が元患者で、ハンセン病家族訴訟原告団長の95歳になられる林力さんは、「ハンセン病の歴史や現実、課題が明らかにされていくことが人権にプラスになる」と笑顔を見せたそうです。林さんの著書に、「人権50話」という本があります。

『「話はわかるばってん、ほんなことになったら、そうはいかんとたい。それはそればってん、これはこればい」「話はわかるけれど、実際のことになったら話のようにはいかない。それはそうだけれど、これはこれだ」。これは博多弁で今も福岡市の博多部の下町に残っている。ものごとの真実を軽妙に言い当てていて面白い。要するに何事も理屈どおりにはいかない。理屈は、理屈、現実は現実ということは世の中に山ほどある。特に人権とか、差別について「話はわかるばってん」という側面が多い。』と、書かれています。

私たちは、差別はいけないこととわかっています。すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等なのです。人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治上その他の意見、国民的もしくは社会的出身、財産、門地その他の地位又はこれに類するいかなることにも差別をしてはいけないのです。

林さんの著書の続きに、ある社会運動の著名な活動家がゼミナールの学生たちと同行して、ハンセン病の学習に施設に何度も訪問したお話があります。

『「初めて療養所を訪ね、入所者の人と別れのあいさつをするとき、神経を侵されゆがんだ手に触れることにためらうものがあった。ためらいの中に、うつくしい病気、治る病気、もう病人ではなくなっている人。自分は社会を変える運動の頭に立った人間ということが頭の中をかけ巡った。そして相手と握手した。二度目に行ったときは、ためらわず握手できた。三度目には抱き合って肩をたたき合っている自分がいた。」

「話はわかるばってん」が克服された話として、うれしく聞いた。』

林さんの人権への思いがたくさん載っている本です。隣保館では、皆様のお越しをお待ちしております。是非、ご利用下さい。

（参考文献：解放出版社発行
「人権50話」林力　著）
（文責：国東市隣保館　森）

市長室からこんにちは　市長日記 103

「今年も秋が来て」

国東市長　三河明史

もう今年は、秋が来ないのではないか、と真面目に心配するほどの暑い暑い夏が終わり、ようやく秋がやってきました。この数日間、空は、青く透き通り、特に朝夕は、めっきり冷え込んで本来の秋らしい秋がやってきました。

今日は立冬、旭川では吹雪いているそうですし、先日、湯布院では、マイナス2度と大分県でもかなり冷え込んできました。梨や蜜柑などの果物、魚やオイスターなどの美味しい季節になりました。

しかし、今年の天候、気象はめちゃくちゃでしたね。夏の猛烈な酷暑、長雨、東日本に大変な被害をもたらした強力台風や豪雨。特に、二つの強力な台風と豪雨で東日本の各地は壊滅的な被害を受けました。箱根では、一日に９００ミリを超える雨が降ったそうです。国東市の一年の雨量の三分の二が一日で降ったわけで、通常では考えられません。この未曽有の豪雨により、千曲川の決壊、大きな河川の「越水」など信じられないような大災害が襲ってきたわけです。

これは決して対岸の火事などではなく、我が国東市でも何時大規模な災害が発生するかもしりません。国東市の誰もが、常に警戒を怠らないようにし、高い防災意識を持っていなければなりません。昭和36年秋のいわゆる「36災」を忘れてはならないのです。

また、西日本では、長雨によりトビイロウンカが大量発生し、あちこちで稲の立ち枯れた田んぼが散見されます。県内産のコメの作況指数は85の「不良」で、全国ワースト2位となり、極めて深刻な結果でありました。自然相手の農業は本当に難しいですね。

昨今の異常気象は地球の温暖化が原因だと言われています。この状況は、全くおかしい、と誰もが感じているのに、世界の指導者達は、特にＣＯ2を大量に排出している「大国」と自称している国の指導者達は、何も対応をとろうとしていない。極めて無責任と言わなければなりません。

スウェーデンの16才、グレタ・トゥーンベリさんが怒りの演説をした気持ちがよく分かります。果たして数百年後、地球は生命が住むことができる星なのでしょうか。金星のように、炭酸ガスの渦巻く高熱の星になっていないことを祈るばかりです。

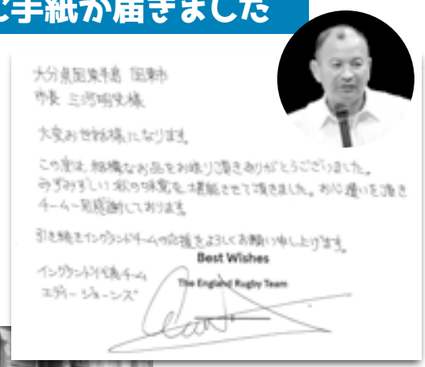
ラグビーワールドカップ　イングランド代表ヘッドコーチ エディー・ジョーンズ氏より国東市に手紙が届きました

10月に開催されたラグビーワールドカップは、大分県も試合会場となったことで大きな盛り上がりをみせました。本大会には全20ヶ国が出場しましたが、その中でも今回準優勝したイングランド代表チームは、ヘッドコーチのエディー・ジョーンズ氏が昨年7月にアストくにさきで講演会を開催したこともあって、国東市とゆかりのあるチームです。

イングランド代表チームは、10月19日の準々決勝の試合を行うため大分県を訪れていました。昨年の講演のお礼と試合の勝利を願い、代表チームに国東特産のみかんを贈呈したところ、エディー氏よりお礼の手紙が届きました。エディー氏は、国東市のことを大切に思っていてくれており、手紙には国東市への感謝の言葉がつづられていました。

大会期間中、多くの外国人が国東を観光し、宿泊しました。これからもイングランドと交流を深め、インバウンドの促進を図っていきます。

【問合先】観光課 ☎0978-72-5168



▲エディー氏からの手紙

◀国東市での観光を満喫したイングランドの応援団（写真：文殊仙寺）

市政バス1月コースに参加しませんか?

市民の皆さんに、市政や当市を支える産業に対する理解を深めていただくため、市の施設や市内企業・事業所等を見学する市政バスを次のとおり運行します。

1月コース　1月16日(木)

9:20 アストくにさき（発）→ 9:35 武蔵支所（発）→ 9:50 安岐支所（発）→ 山渓偉人館
→ 本田航空 → ヤンマー株式会社より、ブランド牡蠣『くにさきOYSTER』の説明と試食
→ 里の駅ふるさと市場R213（昼食）→ 武蔵図書館 → サイクリングターミナル
→ 14:40 アストくにさき（着）→ 14:50 武蔵支所（着）→ 15:00 安岐支所（着）

※コースは変更する場合もあります

参加対象	市内に在住されている方
参加料	無料（ただし、昼食代と入館料は実費）
定員	18名（申し込み先着順で初めて参加される方を優先）
申し込み方法	広報室へお電話（0978-72-5008）もしくは電子メール（kouhou@city.kunisaki.lg.jp）にて①住所②氏名③年齢④電話番号（日中連絡の取れるもの）⑤乗車場所を記載してお申し込みください
締め切り	12月25日（水）
その他	歩きやすい履物、防寒対策をしてご参加ください

「市政バス11月コースに参加しました」